

透析患者の QOL の男女差についての検討

西尾 妙織

北海道大学病院内科 II

【背景】2018年の厚生労働省・腎疾患対策の主目標に透析患者を含む慢性腎臓病患者の qualityoflife(QOL)向上が掲げられている。QOLを向上させるためにはQOLを低下させる要因を知る必要がある。透析患者のQOLについては様々な報告がされている。疲労,痒み, レストレスレッグス症候群など身体的な要因, 抑うつ感などの心理的な要因, 社会的要因など様々な要因からQOLの低下があるとされているが, 性差によるQOLの違いについての報告はほとんど認められない。

【目的】透析患者のQOLに性差があるかの検討を行う。

【方法】北海道大学病院の関連病院にて血液透析あるいは腹膜透析を行っている患者にQOLのアンケートを行う。

QOLは腎疾患患者,特に透析患者を対象としたQOL測定尺度である the Kidney Disease Quality of Life instrument Short Formver1.3(以下KDQOLとする)を用いて評価する。一般情報として年齢,性別,透析情報として,透析歴,透析時間,原疾患などについて関連施設より情報収集する。すべての情報は北海道大学病院に集約し解析を行う。これまで報告のある年齢,透析歴などのパラメーターに加えて,様々な要因が男女で違いがあるかについて解析を行う。

【まとめ】QOLの向上のためにはQOLの低下の要因を知ることが必要である。本研究においてQOLの男女差を知ることができれば,それぞれの性別による,よりきめ細やかな対応ができる可能性がある。この事が,最終的に透析患者全体のQOL向上に寄与できる事が予測される。